

総合展示「『理想』の身体」の展示について

国立歴史民俗博物館
青木隆浩

「『理想』の身体」は、2013年3月にリニューアルオープンされた総合展示第4展示室「列島の民俗文化」の一部として展示しました。この「列島の民俗文化」は3つの大テーマに分かれておりまして、最初の大テーマである「『民俗』へのまなざし」の中の一部を構成しています。また、「『理想』の身体」の展示は、中テーマの『現代の家族像』の中で、「家族の変容」と対をなしています。「家族の変容」がデータに基づいた平均的な家族像を造作と図表によって表現したのに対し、「『理想』の身体」は日常生活で身近な化粧品やトイレタリー商品といった日用品の実物とそれに関するポスターやPR誌、パンフレット、CMなどで構成しています。

対象時期は化粧品やトイレタリー商品が日常生活に深く浸透した1960年代半ば以降です。1950年代前半までは、第二次世界大戦前後における高額な物品税や原料不足により、化粧品業界は厳しい状況が続きます。また、株式会社中山太陽堂（現・株式会社クラブコスメチックス）や平尾賛平商店、久保政吉商店（現・株式会社ウテナ）など大手企業の生産量が大幅に減ってしまった状況下で、小林合名会社（現・株式会社コーセイ）や寿化学株式会社（現・ジュジュ化粧品株式会社）、アリミノ美容化学研究所（現・株式会社アリミノなど）の新規参入が相次ぎます。1946年に親水性コールドクリームを発売したカネボウ化粧品もそのうちの1社と考えています。

1950年代中頃になって、ようやく業界全体の業績が回復してきますが、メイクはかなりおしゃれな人々を除いてあまり普及していませんでした。まだ、クリーム中心の時代です。化粧品業界の売上高が急上昇するのは、このメイクが普及し始めた1960年代中頃からです。このことは、「『理想』の身体」の対象時期を1960年代半ば以降とした大きな理由となっています。また、来館者に商品を「うちにこれあった」「使っていた」「懐かしい」と興味を抱いてもらうことも目的にしています。

展示の構成としては、まずスペースの前にそれぞれ独立した2つの低い展示ケースがありまして、奥の壁面ケースとは年代の異なる、古くてなかなか入手できない資料を紹介しています。向かって右側には化粧品や整髪料、左側には石鹸や歯磨を展示しております。およそ1年に1度、資料保存のために展示替えをしておりますので、構成はそのたびに変わります。現在は、左の展示ケースに新装花王石鹸の包装紙とカネボウ絹石鹸の紙箱を展示しています。以前は1936年に発売したサボン・ド・ソワの包装紙を展示していました。いずれも、使用年代は昭和20年代のものです。

次に、奥の高い壁面ケースでは、まずカネボウ化粧品の関連から、1965年発売のメイヤング（2012年製）や1971年発売のメイヤングスペリア（2012年製）、2000年発売のエビータ（2012年製）、2007年発売のコフレドール（2012年製）、1997年発売のケイト（2012年製）、1977年発売のモンソレイユと1992年発売のテストモの写真パネルを展示しています。このうち、メイヤングは、1966年に山城製薬株式会社から経営権を譲り受けて自社製品としたもので、1962年発売のステージカラーとともに1960年代の主力商品になったものと認識して展示しています。ケイトは大ヒット商品ですし、色彩豊かに表現できますので、数を多めに展示しています。



他には、1977年秋のキャンペーン「舞踏会のワインカラー」でCMソングとなった新井満「ワインカラーのときめき」のシングルレコードを展示しています。「ワインカラーのときめき」のジャケットを飾っているのは、キャンペーンモデルを務めていた古泉まりこさんです。彼女は、他に週刊誌の表紙などにも数年間起用されていたようです。このシングルレコードも退色を防ぐために1年に1度展示替えをしています。

以前は、1977年夏のキャンペーンで使用していたティナ・チャールズ「Oh! クッキーフェイス」や1988年夏のキャンペーン「夏はC」で使用していた浅香唯「C-Girl」といったシングルレコードを展示していました。ジャケットのモデルは、「Oh! クッキーフェイス」がティナ・チャールズさんと夏目雅子さん、「C-Girl」が浅香唯さんです。浅香唯さんが小麦色の肌で出演しているCMの「夏はC」は、1977年の「Oh! クッキーフェイス」から続いていた第二次日焼けブームの終盤に位置づけられます。

なお、第一次日焼けブームは、株式会社資生堂の1966年夏のキャンペーン「太陽に愛されよう」から始まりますが、1973年に起こったオイルショックによって一時収束します。その後、1977年の「Oh! クッキーフェイス」によって、第二次日焼けブームが起こります。1980年代半ばになると、夏のキャンペーンのタイトルから日焼けを想起させるような言葉が消えていき、化粧崩れを防ぐことや紫外線カットに重点が置かれるようになっていきますが、浅香唯さんは日焼けをしながら、サンセラミィによる紫外線カットの効果を宣伝しています。夏といえば日焼けする、その日焼けをどのように抑えるかという感覚だったのかと推測しています。

カネボウ化粧品関連の展示の後、花王の化粧品展示が続きます。展示してあるのは、2008年発売のソフィーナポーテ（2012年製）、同じく2008年発売のプリマヴィスタ（2012年製）、1994年発売のオーブ（2012年製）、1998年発売のキュレル（2012年製）です。花王に関しては、トイレタリーの展示が中心となっております。

奥の壁面ケースの上には、デジタルフォトフレームを4ヶ所に設置しており、そこでCMを紹介しています。化粧品とトイレタリーそれぞれ2つずつ設置してあります。そこには、女優の夏目雅子さんが出演した1977年の「Oh! クッキーフェイス」、アイドル歌手の荒木由美子さんが出演した1977年の「メリットチャンプー」、エッセイストの安藤和津さんが出演した1987年の「アタック」などが展示されています。「Oh!

クッキーフェイス」については、夏目雅子さんのご遺族と相談して、生前の夏目さんが最も気に入っていた、砂漠の中でラクダに乗っているCMを紹介しています。

壁面ケースの上には、アクリル板を使ってPR誌やパンフレット、リーフレットなどを展示しています。こちらにも展示中に退色が進むため、1年に1回展示替えをしています。現在のPR誌としては、久我美子さんが表紙モデルを務めている『QUEEN』No.18、入江美樹さんが表紙に出ている『BELL』No.115、中島ゆたかさん表紙の『BELL』No.188を展示しています。東宝の映画女優をしていた久我美子さんは、『QUEEN』創刊時からモデルを務めています。入江美樹さんは、おもに雑誌『装苑』のモデルとして活動していました。カネボウ化粧品のステージカラーの広告塔として活躍された方です。中島ゆたかさんは女優で、『BELL』の表紙に何度も出ていますが、キャンペーンモデルをしたことがありません。他に、花王の製品カタログやオーブ、ソフィーナのリーフレットを展示しています。



PR誌の上には、ポスターを展示しています。壁面の最上段です。カネボウ化粧品に関しては、夏目雅子さんがモデルを務めている1977年の「Oh!クッキーフェイス」、太田ナオミさんと西野ミチさんがモデルをしている1971年の「Live in Summer」を展示しています。「Oh!クッキーフェイス」は、日焼けをしていなくても小麦色の肌になれるというモンソレイユサンケーキを宣伝したものです。それに合わせて壁面ケースにはモンソレイユの写真パネルを展示しています。一方の「Live in Summer」は、ソワドレーヌステージカラーを宣伝したものです。この頃、カネボウ化粧品は古代・中世、ヨーロッパや中米を自由に行き来するようなイメージを創出して広告を制作していますが、こちらも遺跡を背景にしており、その一環かと思われます。また、展示替えの時に、1972(昭和47)年夏のキャンペーン「マリーン・ラブ」を展示したこともあります。「マリーン・ラブ」のモデルは西野ミチさんです。当時は海岸線での公害が大きな社会問題となっており、このポスターはそのような背景をもとに制作され、広告業界で高い評価を受けたと認識しております。

ポスターでは、他にも女優の高橋恵子さんを起用して花王ソフィーナを宣伝した1987年の「さわやかに、肌のキメをそろえます。」、同じく女優の林寛子さんをモデルにしてカオーフェザーエッセンシャルシャンプーを宣伝した1976年の「毎日シャンプーしたっていいんです。」を展示しています。花王ソフィーナは、花王

が化粧品業界に参入する際、最初に投入した商品です。カオーフェザーエッセンシャルシャンプーが発売された頃は、まだ毎日洗髪する習慣がありませんでした。各家庭に内風呂が普及して、入浴の習慣が広まるのが1960年代後半以降であり、当時は毎日洗髪することがありませんでした。そして、シャンプーは洗浄力や洗髪による傷んだ髪のカケアに重点を置く商品が多かったと思います。その中で、カオーフェザーエッセンシャルシャンプーは、毎日の洗髪をいち早く提案した商品かと思われます。実際に毎日洗髪する習慣が広まったのは、朝シャンがブームとなった1980年代中頃以降です。

トイレタリー商品としては、1970年発売のメリットシャンプー（複製）、1987年発売の重質洗剤アタック（複製）、1963年発売の香りに重点を置いたニュービーズ（1986年型、複製）、花王石鹼ホワイト（複製）などを展示しております。



カネボウ化粧品と花王には、2013年3月にオープンした第4展示室（民俗）の総合展示（常設展示）リニューアルからお世話になっています。2016年10月～12月に開催した企画展示「身体をめぐる商品史」でも戦前・戦後の資料借用、例えば1890（明治23）年に発売した花王石鹼や戦後間もない頃の家庭用配給石鹼、1932（昭和7）年発売の花王シャンプー、1970（昭和45）年発売のメリットシャンプー、1956（昭和31）年発売のカネボウホルモンクリーム、1963（昭和38）年発売のカネボウステージカラーとソワドレーヌステージカラー、1961（昭和36）年発売のカネボウサンオイルなどの借用でご協力をいただきました。さらに、2019年12月～2020年8月にかけては、特集展示「石鹼・化粧品の近代史」でもカネボウ化粧品と花王に関する館蔵の資料を展示しました。ありがとうございます。